

園長だより NO53

緊急事態宣言解除から数週間がすぎました。鎌ヶ谷市は登園自粛期間を6月30日までとじていますが現在の登園児童数は園児総数の8割となり園内も活気がもどってきました。新型コロナウイルス感染防止対応を継続しながら子ども達の生活の場を維持していかなくてはなりません。都内の感染者数の減少傾向も束の間、増えていることを危惧致します。

子ども達の生活もしっかりと軌道に乗ってきたとは言えません。保育士との関係づくり、仲間同士のコミニティーの再構築など時間を取り戻すかのように生活を共にする中でこつこつと築いています。

「遊びを通じて学ぶ」

おおぞら保育園では大げさな教育を掲げて保育はしていません。私が言う大げさとは早期教育にかたより、いろいろな知識を教え込んでいることです。各園それぞれの考えがあるのは当然ですがほんの1例を上げると英会話、習字、茶道、漢字、絵画、囲碁、音楽等々園の特色として取り組んでいるところも少なくはありません。ただ、それで何を育てたいのだろうか どんなこと養ってもらい

たいのだろうか、早期教育を施された子ども達が保育園を卒園し学童期、青年期を過ごした子ども達がどのように成長していくのだろうか

残念なこと全国津々浦々探しても卒園後の追跡調査などは皆無である。

私もその類かもかもしれません。(反省)「遊びと生活」を重視した保育実践がその後、子ども達の育ちにどう影響していったのか地道な追跡はしていません。

先にあげた早期教育に偏る保育を進める園と異なることは、今、自分たちが実践している、実践していこうとする内容が子どもにとって「自らの可能性を発揮しようとする主体的存在」を支え、保障しようと努める内容にあります。

乳幼児で大切にしていること

国の定めた保育所保育指針では乳幼児は、発達の諸側面が未分化であるため

- 「健やかにのびのび育つ」
 - 「身近な人と気持ちが通じ合う」
 - 「身近なものに関り感性が育つ」
- と3つの視点から保育内容を示しています。

教育重視を否定しませんが保育にかかわる先人たちが子どもの育ちにおいて「心情」「意欲」「態度」を育てることに主眼をおき、主体的に学びに向かう力や非認知能力を育てることを大切にしています。時代が移り替わっても乳幼児期において大切にすることは変

わりません。
※非認知能力 (人とうまくかかわる力、目標に向かって頑張る力、感情をコントロールする力、意欲をもって根気よくやりぬく等)

子ども達は成長と共に行動範囲が拡大し見たり、触れたり感じたりすることはどんどん増えていきます。保育士や他の子どもとの生活(遊び)の中で出会いにかかわる人も含め、自分を取り巻くものが成長や発達を促していく環境となります。

数日前の遊びから(2歳児)

身近な環境に親しみ触れ合う中で様々なものに興味関心をもつ。遊びを通じて発見を楽しみ、考えている姿がみられる。



ホースから水を出す。子ども達で使い始めたら、普通ならついつい「ダメ」と言ってしまうもの。ここでは子ども達の興味、関心に添い「やりたい、やってみよう」に共感!

見ている大人もどんなことが起きるか期待してんでいます。

最初はホースの取り合いでした。なんとかお互いに折り合いをつけ、二人で使用、しばらくして交代(順番 かわりばんこ、自分の感情をコントロール 協調性の芽生え)



遊びの発端をつくる。「いれて、いいよ」丁度よい量を慎重にそそぐ。(友達との関係性) (感覚の育ち)

たらいに水を入れてもらい ひたすらシャベルで水をすくいコップの中へ



「できる できる おもしろいよ」(持続する集中力 指先や腕の操作性の獲得、座位の維持 体幹の発達)



土の感触を確かめながら土を集める。

場所を変え 動きながら土を集めています。



気がつけばカエルに変身していました。(豊かな発想) カエルのストーリーが生まれました。

日常いたるところに子どもの学びはある。子ども達は遊ぶために生まれてきたのだからたくさん、たくさん 遊びましょう!

(園長 廣部 信隆)